

## Q1-2 日本ではどのくらいの雨が降りますか（降水量）

わが国は南北に長く、亜寒帯から亜熱帯まで多くの気候帯があり、日本の年降水量はおおよそ1,000 mmから3,000 mmを超える範囲まで分布しています。日本全国の平均的な年降水量はおおよそ1,700 mmといわれています。一般に緯度が高くなるほど降水量は少なくなることが知られていますが、日本は同緯度に位置する他の国々と比べて降水量が多いという特徴があります。これは、日本が四方を海に囲まれた島国で、海を渡ってくる大気には海面から蒸発した水蒸気が多量に含まれているためです。

関東平野を流れる利根川の源流部にある広さ約20平方キロの山地流域（森林流域）において、降水量分布を調査した結果、標高の高いところほど降水量が多いことが明らかになりました（図1）。このような脊梁山脈に分布する森林流域では、平地と比べて冬の降水は雪としてもたらされることが多く、年降水量が多くなります。山地に積もった雪は春先から初夏にかけて徐々にとけ、下流域に流れ出ます。このように、森林流域からゆっくりと流れてくる雪解け水は、水田への灌漑用水（農業用水）として使われるなど、貴重な水資源になっています。

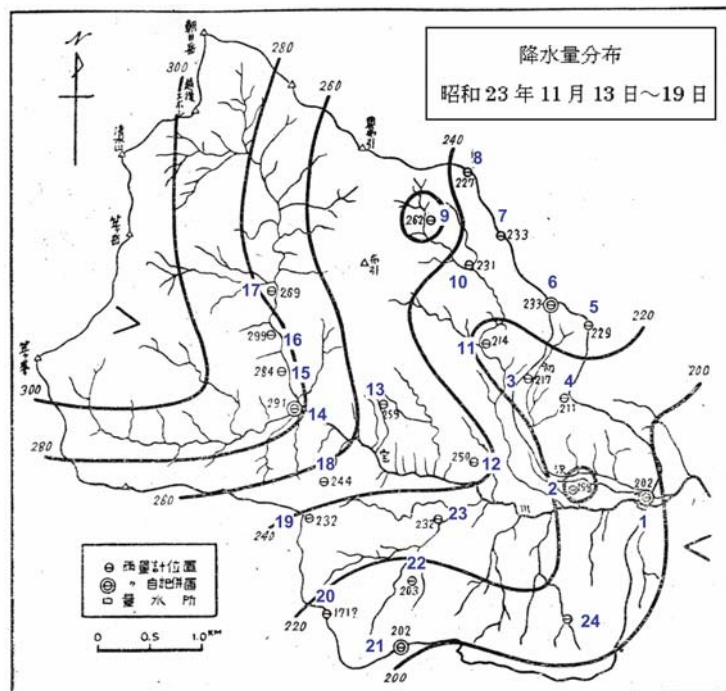


図1 宝川森林理水試験地における降水量分布  
試験地の標高は北西に行くほど高くなる。20 mm 間隔の等値線は、流域内の  
24ヶ所に設置された雨量計（青字の番号）で測定した降水量（mm）から内挿した。  
（前橋営林局、1950 に加筆）

### 参考文献

- 国土交通省水資源部編(2009) 平成21年版日本の水資源
- 前橋営林局(1950) 宝川森林治水試験第2回報告